

学びの保障にむけた小学校入学後における接続期の取組に関する調査研究

三重県教育委員会事務局 研修推進課 テーマ研修班 研修員 浅川 良行

I 研究の目的

小学校入学後の接続期において、児童が安心感を持って学校生活を送るために、学校や教員に求められる有効な手立てを、「三重県保幼小の円滑な接続の手引き」を参考にしつつ探究する。そして、この研究成果が各小学校及び幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園（以下、「幼稚園等」）で活用されることで、就学前後の児童にとって円滑な接続が図られ、入学以降の学びの保障に資することを目的とする。

II 研究の内容

1 調査と参観から得られた有効な手立て

協力小学校の2年生児童 90人を対象とした入学時に困ったことについての調査と、四日市市内の市立幼稚園・市立保育所・市立幼保連携型認定こども園・私立幼稚園の5才児学級及び市立小学校3校の第1学年の保育・教育活動の参観から得られた有効な手立てを、次のとおり整理した。

手立て1 どの児童にも目を配り、その思いを引き出すような声掛け（共感・称賛・質問・助言）

手立て2 児童が理解できるような聞かせ方の工夫

ア 適切な声の大きさと話す

イ スモールステップで伝える（簡潔にわかりやすく）

ウ 視覚支援（具体物、絵カード、ICT機器等）を併用しながら話す

手立て3 児童が自信を持って主体的に活動できるような環境づくり

余裕を持った活動時間・学習内容に合わせた環境づくり（場所）

このような手立ての有効性を検証するため、上記の3点を取り入れた生活科さんぽ秋単元の学習指導案を作成し、協力校において授業実践を行った。

2 協力小学校での授業実践

(1) 授業実践の概要

協力校：四日市市立三重小学校

対象：第1学年3学級 86人

実施日：11月21日～12月4日の内、各学級2日間

(2) 学習場面と実践計画・結果

【めあて把握の場面】

- 1 秋に対するイメージを出し合う
 - ・ プロジェクターの活用
- 2 紅葉以外の秋について考える
 - ・ 春や夏との比較→体験活動へつなげる
 - ・ ペア学習ののち全体交流へ
- 3 単元全体の見通しを持つ
 - ・ 目的意識を持たせる

課題 からだをつかって
あきをかんじよう

手立て2

◆実践計画

紅葉した景色の画像をプロジェクターで大きく映し出すことで、児童の興味・関心を惹きつけ、秋について学習するという共通認識を持たせようとした。

○実践の様子

紅葉した景色の画像を提示し、話し合いを持った後、同じ画像をプリントアウトし、黒板に掲示

○実践の結果

「よく見えない」「わからない」といった声

→どこに着目したらよいかわからない

→授業のねらいが達成できる素材の提示が必要

【課題解決の場面】

手立て1

- 1 屋外で体験活動を行う
 - ・ ペアで気づきを共有させる
- 2 片付けをし、次時の予告を聞く

◆実践計画

児童の思いを引き出すために、「いいものを見つけたね」「どうしてそう思ったの」等の共感や質問の声掛けに重きを置き、やり取りを繰り返した。

○実践の様子


発言や思いに肯定的に寄り添い、問い返しの声掛けを行った。

○実践の結果

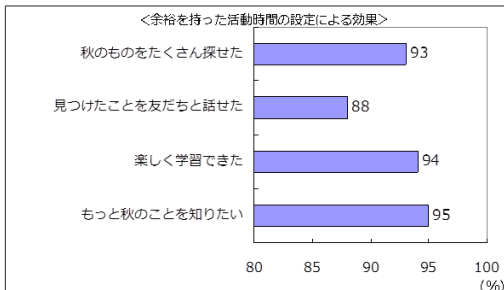
児童の発言をそのまま受け入れる

→さらに対話が進む

→児童が主体性を持って次の活動へ

	<p>手立て3</p> <p>◆実践計画 個々の学習状況に応じた場所に導くため、中庭や運動場の自然の状態を事前に把握しておいた。</p> <p>○実践の様子 イロハモミジの葉の色について、児童たちは赤だと言うので「赤ばかりかな？」と問い尋ねた。</p> <p>○実践の結果 さらに細かい観察の視点を児童に与えられた → 学びを深めることにつながる</p>
<p>第二 次</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 45%;"> <p style="background-color: green; color: white; padding: 5px; text-align: center;">課題 わくわく あきずかんをつくらう</p> <p>【ワークシート作成の場面】</p> <p>1 ワークシートに見つけたものをかき、見合う ・ペア→個人→ペア</p> <p>手立て1 手立て3</p> <p>◆実践計画 ワークシート作成に45分間を確保し、一人ひとりに声掛けをした。</p> <p>○実践の様子 児童一人ひとりの進捗状況を把握し、できている児童には褒め、悩んでいる児童には、質問をしながら一緒に一文ずつ考えた。</p> <p>○実践の結果 全員が自信を持って、ワークシートを完成した →時間をかけて丁寧に仕上げた →集中力が最後まで持続した</p> <p>【全体交流の場面】</p> <p>1 ワークシートを元に発表する ・書画カメラの活用</p> <p>2 学習のまとめと振り返りをする</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;">  <p>児童作品</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">手立て2</p> <p>◆実践計画 児童のワークシート全体を発表時、書画カメラで拡大提示した。</p> <p>○実践の様子 スクリーンの絵を指し示しながら、児童に発表させた。</p> <p>○実践の結果 良い姿勢で、スクリーンに注目しながら聞く児童の姿 →興味を持って聞いていた →絵や文字が、話の理解を助ける</p>

(3) 児童アンケートより



左図は、授業後に児童を対象として行ったアンケート調査結果の一つである。

余裕を持った活動時間の確保【手立て3】によって、どのような学びが深まったかを尋ねた。「もっと秋のことを知りたい」の項目が95%という高い数値を示している。

これは余裕のある時間の中で、興味・関心に基づくさらなる探究心を高められたことと、ゆとりを持った授業であったことから【手立て1】の細やかな声掛けが可能となったこと、また、【手立て2】によって理解を深める活動ができたことが要因だと考えられる。

III 成果と課題

1 成果

協力校での授業実践を通して、これまでに述べてきた3点の手立てを取り入れた授業を行うことが、有効であると実証することができた。

2 課題

今回、検証した3点の手立てを、他教科・他単元及び授業以外での学校生活において、どの場面でのように取り入れることが可能であるかについて、さらに探究することが求められる。